

2018年8月17日

パート1： 特別講演講師陣の紹介

平成30年7月豪雨におきまして、被災地および周辺地域の被害にあわれた皆様に謹んでお見舞いを申し上げます。一日も早い復旧、復興を心よりお祈り申し上げます。

皆さま、こんにちは。
実行委員長の飯田美沙です。

第21回日本腎不全看護学会開催まで、残り3ヶ月を切りました。
実り多い、あたたかなおもてなしの学会とすべく、赤津大会長、実行委員の方々とともに、準備を進めております。

当初、スイーツと称していたセミナーが「ピリ辛(?!)スイーツセミナー」となったり、
楽屋で交流集会など、ひと味違った大会準備に余念がありません。
今大会初のフルーツセミナー、長野の美味しいフルーツを準備しています。
食べ物のお話しばかりになりましたが…。



講師の先生方ですが、大変魅力的な先生方に御講演をお願いしております。
御紹介させていただきますと…

1日目の11月10日(土)午前に特別講演をお願いしています、若麻績 敏隆さんです。善光寺白蓮坊の住職でありながら、東京藝術大学のご出身であり、同大学院美術研究科日本画専攻修士課程、更に大正大学大学院仏教学コース修士課程も修了されています。美術的認識から死後の世界のとらえ方についてご教授頂く、貴重な機会であると、私自身大変楽しみにしております。

同じく 1 日目の午後に特別講演を頂く、井部 俊子さんです。皆さま、大変よくご存じの事とは思いますが、聖路加国際大学 名誉教授であり、井部看護管理研究所の代表をされております。看護のアジェンダはあまりにも有名で、多くの看護師や医療従事者、患者、全人類にさえも影響を与えているのではないかと感じます。自らの看護観、人生観、死生観までも、丁寧に向き合いたくなるとともに、先生からのエネルギーと刺激が、指南書のように突き刺さるからその迫力に目が覚める思いです。

2 日目の午前中の特別講演には、宗教法人 神宮寺の高橋 卓志さんをお願いしています。原発事故の被災者支援に取り組む NPO 法人・日本チェルノブイリ連帯基金の設立に尽力し、鎌田實さんと往復書簡スタイルで 2 人が著した『生き方のコツ死に方の選択』(集英社文庫)は涙なしには読めません。このようなご経験から、生老病死を支えるコミュニティケアとして長野県松本市で在宅型ホスピスとして温泉街を利用した取り組みなどでもご活躍です。大変お忙しい高橋住職ではありますが、8 月からタイに留学します。タイではエイズの支援活動、タイでの仏教についての勉強をされるとのこと。学会時には一時帰国して御講演頂きます。

御参加頂く皆さまが、必ずや満足し、そして臨床現場で活かせる何らかのお土産を得る事ができると確信しております。

是非、当日は会場で、先生方の御講演をお聞きください。

